

51. 三多摩地方の農業従事者の衣生活実態調査

—その1—

東京都愛国学園高校 ○萩原 房子

1. 歴史を溯れば溯る程国民の大多数が農事者であった点からも農村の衣生活こそは歴史と伝統を誇る代表的な日本国民の衣生活であり生活々動の働きに即して活動的姿を包むものである。戦後衣生活面での作業衣改善は著しいものがあつた。しかし一方長い衣生活の慣習と伝統をもつ農村では直ちに受け入れることのできない条件もある。農作業衣は社会の変化に伴う衣服形式の変化・農業技術の進歩に応じて変化すると考えられる。この様な考えからいかなる様式をもつ作業衣を着用しているのか。同時に中心部の衣服の機能的・装飾的な近代性が武蔵野の一隅の地にどの様に浸透しているかを調査した。

2. 種々の予備調査の結果に基づき問題を作成B5判の印刷物としその調査用紙を三多摩14市町村600戸に配布した。記入式解答法、多肢選択法の両者併用。

3. 農家の生活は外観上からは家庭生活と労働生活の間のけじめをつけ難く又性質も類似点があることなので家庭着兼作業衣が多い。又当地方の農業が次第に副業化されてゆく傾向にあり、農耕地の宅地化問題と相まって農村の衣生活を全く変えてしまったといつても過言ではない様である。今の段階よりももっと能率的・経済的な作業衣として和服仕立の上衣よりも洋服仕立の上衣をもっととり入れた方が賢明であろうと思われる。又機能上・衛生上の観点から作業衣と家庭着とははっきり区別する様心がけるべきだと思われる。